

第14回知識構造化シンポジウム 「多様な業務への活用に役立つ 知識の再利用性を考える」

ライブ配信
開催

2022
9/16(金)
13:30-17:00

会場：日科技連・東高円寺ビル（東京都杉並区）

参加費：4,950円（税込／一般・会員ともに）

◆特典つき！詳細は裏面に◆

主催：一般財団法人日本科学技術連盟

後援団体：（順不同）

一般財団法人日本規格協会 一般社団法人日本自動車部品工業会

一般社団法人 KEC 関西電子工業振興センター 日本信頼性学会

一般財団法人日本品質管理学会 株式会社日科技連出版社

不具合情報・技術情報から知識を一般化・体系化し、未然防止に活用するSSMによる構造化知識マネジメントは、多くの業種・企業で取り組まれています。導入企業では、SSM知識を活用し、デザインレビュー、FMEA、チェックシート運用、トラブルシューティングなどを強化し、設計、生産技術、製造、サービスなど様々な部門の業務品質を向上させています。こうした背景の下、多様な業務への活用を想定し、組織の経験・知見を知識資産として整理、蓄積する活動を効果的、効率的に行う必要性が益々高まっています。

今回のシンポジウムは、知識を再利用する基本的な活動として予測、診断、標準化を取り上げ、再利用性の高い知識のあり方や特徴について、基調講演と事例講演を通じて皆さまと理解を深めます。

※本シンポジウムは実践に重点をおいた内容となっています。下記の書籍を事前にお読みいただくと、一層効果的です。

『SSMによる構造化知識マネジメント－設計開発における不具合防止に役立つ知識の構築と活用－』（田村泰彦 著 日科技連出版社）

『JSQC選書 第4巻 『トラブル未然防止のための知識の構造化－SSMによる設計・計画の質を高める知識マネジメント－』（田村泰彦 著 日本品質管理学会監修 日本規格協会）

（田村泰彦 著 日本品質管理学会監修 日本規格協会）

※ライブ配信とは、ご参加いただく方のPCもしくはタブレット、スマートフォン等でシンポジウムの様子を映像で視聴しながら参加していただく形式です。総合討論での質問方法、ライブ配信プラットフォーム、PC等の推奨環境など詳細はwebサイトをご確認ください。

プログラム

時間	内容／講演者（敬称略）
13:30-13:40	オリエンテーション
13:40-15:40	基調講演： 「予測の科学」 飯塚 悦功（東京大学名誉教授） 事例講演 1： 「多様なワークを扱う梱包・包装機におけるSSMによる一貫通貫した知識活用と社員育成」 北村 尚之（株式会社京都製作所 技術・生産本部 開発部 課長） 事例講演 2： 「動画マニュアルを活用した製造現場の作業標準化による生産性・安全性向上の実践」 犬塚 俊之（東京海上ディーアール株式会社 経営企画部 主席研究員）
15:40-16:10	特別解説：「SSM導入・定着の進め方と導入各社で広がる様々な取り組み」 長谷川 充（株式会社構造化知識研究所 シニアコンサルタント）
16:10-16:50	総合討論：全講演者 コーディネータ：田村 泰彦（株式会社構造化知識研究所 代表取締役）
16:50-17:00	まとめ

※プログラムは予定です。時間・講演内容・タイトルなど予告無く変更される場合がありますので予めご了承ください。

お問合せ先

日本科学技術連盟 品質経営推進センター SSM担当 TEL：03-5378-1213 E-mail：tqmsemi@juse.or.jp

お申込みは裏面をご利用頂くか、日科技連 HP・URL：http://www.juse.or.jp/ をご確認ください。

概要 (講演者敬称略)

基調講演「予測の科学」

飯塚 悦功 (東京大学名誉教授)

設計や計画には予測が必須である。設計とは要求を満たす手段の指定である。計画には目的設定と目的達成手段を決めるという2つの行為がある。設計解は一つとは限らない。計画における目的達成手段も一通りとは限らない。これら複数の手段の候補から適切な解を選択するには、採用時の影響の予測が重要となる。設計や計画には新しさがあり、過去の知見の流用だけでは済まない。私たちはなぜ予測できるのだろうか。予測とは「経験の外挿」との基本的考え方に基づき、SSMの本質を探る。

事例講演1「多様なワークを扱う梱包・包装機におけるSSMによる一貫通貫した知識活用と社員育成」

北村 尚之 (株式会社京都製作所 技術・生産本部 開発部 課長)

弊社では、お客様の様々な製品(一次包装済み食品・洗剤・化粧品・医薬品・電子部品など)を扱う梱包・包装機を主に受注生産しており、SSMを活用した技術伝承、技術者育成及び設計DRを推進してきた。過去のシンポジウムで、設計完成度を左右する設計部門を対象にした活動成果を報告したが、その後、FA事業において最もお客様の生産活動に直結している製造・サービス・営業部門を対象に、トラブル診断支援システムの開発を進めてきた。今回はこのシステムによる設計から製造・サービスまでの一貫通貫した知識活用と今後の展望について、今までの活動報告と合わせて紹介する。

事例講演2「動画マニュアルを活用した製造現場の作業標準化による生産性・安全性向上の実践」

犬塚 俊之 (東京海上ディーアール株式会社 経営企画部 主席研究員)

当社は、事故・災害のリスクマネジメントを主たる業務とし、多数の企業向けに安全・防災面のアドバイスを提供してきた。近年の高齢化に伴う製造現場の人手不足により、膨大な知識・ノウハウの伝承が困難となり、それまでなかった災害やトラブルが増加している。現場に存在する暗黙知や過去の災害の教訓を可視化・提供し、今後の製造現場を担うデジタルネイティブ世代にわかりやすく伝えることを目指して、このたび「動画マニュアル配信システム」を活用した現場作業の標準化支援サービスの提供を開始した。本講演では、顧客企業の課題例・実践例を中心に、サービスの将来構想も含めて紹介する。

特別解説「SSM導入・定着の進め方と導入各社で広がる様々な取り組み」

長谷川 充 (株式会社構造化知識研究所 シニアコンサルタント)

総合討論 (全講演者)

コーディネータ: 田村 泰彦 (株式会社構造化知識研究所 代表取締役)

◆参加者特典のご案内◆

本シンポジウムの参加者特典として、日科技連主催「設計開発における不具合未然防止のための知識活用セミナー」(参加費:一般73,700円、会員66,000円(税込))の参加費割引[一般・会員とも4,950円(税込)/1名の割引]を実施します!(※2022年度第2回、2023年度第1回コースが対象となります。)本特典は3名様(シンポジウム参加者ご本人+2名)までご利用可能です。上記セミナーに参加される場合、本シンポジウムの参加費分が割引される大変お得な特典です。ぜひご利用ください!なお、本特典をご利用になる際には、上記セミナーお申込み時に、本シンポジウム当日に配付する専用申込書が必要となります。

◆お申込み先:セミナー受付グループ (FAX:03-5378-1227/regist@juse.or.jp/TEL:03-5378-1222)

※No欄は記入しないでください **第14回 知識構造化シンポジウム参加申込書** 2022年 月 日

No	参加者名	所属事業所・部課・役職名	所在地	電話/E-mail
		〒		TEL: E-mail:
		〒		TEL: E-mail:
		〒		TEL: E-mail:

●連絡担当者様 (お申込み受付後「開催ご通知」をお送りする方)

会社名		事業所名		電話	
部課/役職名		ふりがな 担当者名		FAX	
所在地	(〒 -)		E-mail		
参加費	4,950円(税込) × 名 =		円		

※ご記入いただいた企業・組織及び個人情報は、参加申込み受付処理ならびに日科技連からのセミナー情報ご送付のために使用いたします。また、当該個人情報は必要なセキュリティ対策を講じ、厳重に管理し、第三者に提供することはありません。なお、お申込みいただいた方には当連盟のセミナー・研究会・講演会等をご案内する場合がございます。また、その際、宛名データを外部に委託する場合がありますのであらかじめご了承ください。ただし、ご要請があればご案内を速やかに中止いたします。

※事前のキャンセル連絡がなく欠席された場合は、資料のご送付と引き替えに参加費を全額頂戴いたします。